その他の清掃・と畜業における死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発生時	死亡災害事例	起因物（小）	事故の型	労働者規模
2020	4	16～18	被災者は普段は構内清掃を行うが、被災日は製鉄時に生じるコークスガスから硫化水素を除く脱硫塔の充填物の入替（１０年に１回）に従事。下から２層目で新しい充填物をスコップでならす作業中、足元のグレーチング（上６９・下１２７・高さ５６ｃｍ、１辺のみ斜めの台形）が脱落、５ｍ下の１層目に墜落した。	321	1	1～9
2020	9	10～12	４トンダンプトラックの荷台を上げ、オイル交換作業を行っていたところ、荷台が降下し、車体と荷台の間に頭部を挟まれたもの。	221	7	30～49
2020	12	8～10	被災者は事業主、同僚とともに古紙の回収作業に従事していた。古紙を回収後、事業主が訪問先とは反対側の車線に自社保有のトラックを移動させ、被災者は同僚とともにトラックの後方付近で出発準備等を行っていたが、道路を横断しようとして走行車線へ飛び出したところ、走行していたトラックに轢かれたもの。	221	17	1～9
2019	2	8～10	タンクに入っている腐敗したラテックスをタンクローリーに抜き取り作業を行っていたところ、上部で作業していていた代表者がいなかったため、下で作業していた被災者がタンク上部を確認したところ、タンク内に落下している代表者を発見しタンクローリー運転手に助けを求めた。タンクローリー運転手がタンク上部に上った際に、代表者と被災者がタンク内で浮いているのを発見し救急要請。約４時間後に救出されたが死亡確認された。	714	12	1～9

2019	2	10～12	被災者は同僚とともに、３階の窓（地上からの高さは約９ｍ）を廊下側（内側）から清掃していた。同僚は大きな物音が聞こえたので、音のした方を見ると、被災者が使用していた脚立があり、窓が開いていた。すぐに近づいて、窓の外を見たところ、仰向けなって地面に倒れている被災者を発見した。被災者に意識はなく、救急搬送された。	418	1	10～29
2019	6	4～6	コークス工場にある「ガイド車」のレールが敷設されている「プラットホーム」（幅約３ｍ）において、そこに落ちているコークス屑の撤去作業をトラクターショベル１台を用い、被災者を含む５名で行っていた。プラットホーム中央に掻き寄せたコークス屑をトラクターショベルで掬い上げ、後退していたところ、その後部にいた被災者が轢かれた。	141	7	10～29
2019	6	6～8	被災者は、事業場の現場事務所から事務所まで、朝礼に出席するため、高速道路を利用していたところ、対向車に激突し、死亡したもの。	221	17	10～29
2019	8	12～14	小中学校に設置された貯水槽内部の清掃作業の業務を委託されたもの。災害当日は午後より労働者３名で中学校屋上の貯水槽内部の清掃作業を開始したところであった。被災者は貯水槽の外観を写真撮影していたが、撮影中に屋根の端部より約１６ｍ下の地面に墜落した。	415	1	10～29
2019	9	22～24	被災者は車道の左側車線側のマンホールを開けて清掃作業を行っていたところ、被災者の後方にあった作業車に２０トンダンプが追突。その衝撃で被災者は玉突き状に後方作業車に巻き込まれて死亡したもの。	221	17	10～29
2017	1	8～9	飲料水水槽（水深４．５ｍ 一般家庭用）内の堆積物除去を行う作業をするため，被災者が潜水具を付け，水中ポンプで掃除機のように清掃していた際，意識不明になり，心肺停止で病院へ搬送され，４時間後死亡が確認された。通常は３名で作業を行っていたが，災害発生時は２名で作業を行っていた。	713	10	10～29
2017	3	10～	枝の剪定作業のために木に登っていた被災者が地上で倒れているのを墓参りに来た者が発見した。木に登り枝の剪定を行っている被災者と会話して	712	1	100～

		11	いる者がいたことから理由は不明であるが剪定中の木から墜落したと思われる。			299
2017	8	8～9	災害発生当日は、午前６時３０分から一般住宅の浄化槽の清掃作業を同僚と２名で行っていた。数件の作業を終えて次の作業場所に移動するために公道上に停車していたバキュームカーを同僚が前進させたところ、「止めてくれ」と被災者の声がしたため、バキュームカーの左前方の確認を行ったところ、轢かれた状態の被災者を発見した。その後、搬送先の病院で死亡した。	221	17	1～9
2017	12	10～11	工場の屋根に設置されている太陽光パネルを労働者６名で清掃していたところ、被災者が屋根に設けられた天窓のガラスを踏み抜いて高さ約１３．８メートルの箇所から墜落し、死亡した。なお、墜落防止措置は講じられていなかった。	415	1	1～9
2016	3	9～10	ゴミ処理場の一般可燃ゴミ焼却炉の集じん機内部で発生した災害。被災者がろ過式集じん機内部にて蓄積灰の除去作業を行っていたところ、何らかの理由で蓄積灰が崩壊し埋もれた。	391	5	50～99
2016	7	12～13	被災者は教育資料用の写真撮影のため、デジタルカメラを持って１人で建屋（機械棟）屋上に上がった。その後１３時１０分、地上に墜落して倒れているのを同僚に発見された。屋上は地上から高さ２３．４メートルあり、屋上に張られた避雷針のワイヤロープのそばに左足の靴だけが残されていた。	418	1	10～29
2016	10	8～9	処理場において、最終沈澱池の汚泥掻寄機修理に伴い、最終沈澱池内の清掃作業を行うため、当該沈澱池ピット開口部（縦１１１．５センチ×横１２７センチ）のグレーチング上でシート養生作業を行っていたところ、グレーチングが何らかの原因で外れ、深さ１１メートルの最終沈澱池内に墜落した。被災者は、最終沈澱池内に溜まった深さ１２０センチの汚水内に、うつぶせの状態で発見された。	416	1	30～49
		10	金属スクラップを電気炉で溶かす際に発生する排ガスを処理する「急冷室」で水漏れが発生しているのを発見、確認のため急冷室の基部にある			

2016	10	～11	ゲートを開放したところ、ゲートからダスト混じりの熱湯及び水蒸気が噴出し、ゲート付近にいた２名が火傷した。２名の内１名が、入院先の病院で死亡した。	391	11	1～9
2016	12	7～8	被災者は軽トラックを運転していて対向車線の橋の欄干に衝突、車から降りたところ、走行中の別の自動車（軽トラック）にはねられた。	231	17	1～9
2015	3	8～9	信号のない交差点内で、東方向に走行していたダンプカーが南方向に走行していた被災者２人が乗ったバキュームカーの側方部に衝突した。衝撃でバキュームカーは２、３回転した。助手席に乗っていた労働者は車外に投げ出され、頭等を強く打ち、翌日搬送先の病院で死亡した。運転席に乗っていた労働者は腰の骨を骨折した。	239	17	10～29
2015	8	8～9	被災者は、ゴルフコースのＴグラウンド上の芝刈り後の芝をスイーパーと呼ばれる乗用集塵機で清掃作業中（運転）、Ｔグラウンド法面傾斜地でスイーパーが横転し、スイーパーの下敷きとなったもの。	229	2	1～9
2015	4	16～17	山積みされた廃棄物の中で廃棄物の分別作業中、同廃棄物の上で廃棄物のかき集め作業をしていた車両系建設機械のアームに激突された。	145	6	1～9
2015	4	8～9	共同企業体から依頼された煤煙濃度測定業務を行うため、測定場所に向けてアスファルトプラント内を移動中、稼動していたトロリとサージビンフレームとの間に頭部を挟まれたもの。	229	7	30～49
2014	2	8～9	被災者は、同僚とプールサイドに落ちた鳥の糞をデッキブラシで落とす清掃作業を行っていた。楕円状のプールサイドを左右に分かれて清掃を開始し約８分経過後、プールで釣りをしていた客が、うつ伏せになって水面に浮いている被災者を発見した。水深はプールサイド付近で１メートル、発見された箇所は１．３メートルであった。	419	10	10～29
2014	11	8～	同僚が機械式ごみ収集車の回転板の起動スイッチを押したところ、被災者が回転板に頭部を挟まれた。	221	7	10～

		9				29
2014	12	2～3	下水道管の点検作業中、下水道管路上にて、機材の撤去作業を行っていた際、上流側に背を向けた状態で作業を行っていたところ、下水管より外れて流されてきたバルーンと下水管側壁に挟まれ死亡した。	391	7	1～9
2013	1	4～5	被災者は、下り坂の路上で、ごみ収集車の運転席から降りて前方にあった可燃物ごみを収集していたところ、無人のごみ収集車が動き出し、腹部を激突された。	221	6	30～49
2013	1	13～14	ゴミ焼却施設の溶融炉整備作業において、除去したクリンカ（炉壁に付着した塊）を炉下部のマンホールから排出していたところ、詰まって掻き出せなくなったため、被災者と同僚１名が炉内に入り炉底から約２．７ｍのクリンカ上に立ち、同僚が約１０分間金属棒でクリンカを突いた。被災者に交代してほどなく、突然、クリンカが崩壊し、被災者は頭を下にして腹まで埋まり、救出されたが窒息により死亡した。	341	5	50～99
2013	2	12～13	被災者は、軽自動車を運転し県道（片側１車線）を走行していたところ、カーブ入口付近で対向車線にはみ出し、対向車線を走行していたトラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2013	4	11～12	サイロ内の清掃作業にあたり、サイロ内に残っていたトウモロコシの粉末を掻き出す作業中、トウモロコシの粉体が崩れ、トウモロコシの粉に埋まった被災者は身動きが取れなくなり、窒息死した。	529	5	10～29
2013	7	9～10	リサイクル工場にて、砂製品を貯蔵するサイロ（高さ８ｍ、直径３ｍ）内部の清掃作業中、被災者は、当該サイロ内に縄梯子を吊り下げ、壁面に硬化した砂をケレン棒を用いてかき落としていたところ、縄梯子上でバランスを崩し、サイロ底面まで約５ｍ墜落した。サイロ内の砂は予め排出され、サイロ底部に砂は堆積していなかった。	371	1	10～29
2013	3	7～8	空積みの最大積載量２４トンのコンテナトラックを、被災者を含む２名で誘導していたところ、この２名の誘導者で「ストップ」と声で停止の合図をしたが、運転者に届かず、そのまま後進したために、コンテナトラックの後方にいた被災者が、コンテナトラックと「輸出台」と呼称される鉄製	221	7	30～49

			の架台との間に挟まれた。			
2013	6	10～11	無線操縦ヘリコプターによる農薬散布を４名で実施中、被災者は場所を移動するため、同僚が運転する２ｔトラックの荷台に農薬散布用無線操縦ヘリコプターを積載し、荷台上（荷台の長さ３m程度の後部のあおりを平たんにして、あおりに腰掛けるようにして）に搭乗し、無線操縦ヘリコプターを支えながら農道を移動中、トラックの荷台から転落した。	221	1	1～9
2012	8	8～9	被災者は同僚と2人でし尿収集車を使用して目的地に向かうため、収集車の運転を同僚が行い、被災者は後部ステップに立って乗った。市道上で後進して走行を開始し、約20mの位置で「ガクッ」と衝撃を感じたため停車して外に出たところ、収集車下に轢かれいた被災者を発見した。	221	17	1～9
2012	12	10～11	廃プラスチックを原料として分解油を製造する「廃プラ油化施設」において火災が発生し、同施設の運転業務を行っていた作業者2名が火傷を負った。なお、被災者2名は、廃プラ油化施設の内部圧力が上昇したため、残渣油を取り出すダストキャッチャーのバルブを開けている際、油分が一気に出て何らかの火元により引火した。	512	16	30～49
2012	1	8～9	生ごみ処理装置の上部に上がってホッパーの中に入り、プロペラに付着したごみを取ろうとしたところ、装置内部に墜落し、プロペラ等の突起物で大腿動脈を損傷し失血死した。	169	8	1～9
2012	3	11～12	ゴミ焼却施設の清掃作業に従事していた被災者は、排ガス処理のためのろ過式集じん機の下部を清掃中、灰出し用のスクリューコンベアに両足を巻き込まれ、両足を切断、出血多量により死亡した。	224	7	10～29
2012	3	14～15	下水管の止水栓を開けるためにマンホールの蓋を開けて中に入ったところ、実際は止水栓は開いていたものの汚水が詰まって流れてこなかったため棒で突いた。その後、汚水が流れ出た際、マンホール内に居た１名が意識不明となり救急車で搬送された。	714	12	10～29
		13	被災者は、炉筒煙管ボイラー内部の清掃のため、炉筒上に伏せた状態で、ブラシで煙管等の清掃を行っていたところ、ブラシを缶底に落としてし			1～

2011	8	～14	まった。被災者は、このブラシを拾うために、身体を缶底部に乗り出したところ、そのままずるずると落下して行き、缶底に長時間首を曲げた状態でいたため、首圧迫により窒息死したもの。	311	1	9
2011	11	4～5	被災者がごみ収集車を傾斜地でバックで移動させた際に、ごみ収集車の右後部が電柱に接触した。被災者がその様子を確認するため、当該電柱に駆け寄ったところ、ごみ収集車が後ろに下がり、電柱とごみ収集車に挟まれ被災したもの。	221	7	1～9
2011	5	15～16	被災者及びバキュームカーの運転者は、上り坂となっている道路の路側帯において、地下し尿貯槽からし尿の汲み取りを行っていた。汲み取りを終えた直後、バキュームカーが後退を始めたため、被災者及び運転者が車両後方から手で押さえたものの、車両は約３メートル後退を続けた。運転者が運転席に乗り込み車両を停止させたが、被災者が何らかの原因で転倒し、後退してくる車の左後輪に轢かれ、外傷性心破裂により死亡したもの。	221	7	10～29
2011	12	8～9	他の作業者が配管から砂を取り出すための調査をしていた所、後方から見ていた被災者が、別の作業のために設けられた荷物搬入用の開口部から、６メートル下のコンクリート床に墜落した。２日前より、地下ピットにおける基礎修繕工事のため、開口部を塞ぐ鉄製の蓋板と階段途中の踏み板４枚を外していた。開口部上部に電動ウィンチを設置し、資材及びコンクリートガラを搬出入していた。	414	1	30～49
2011	10	15～16	中央分離帯上で除草作業を行っていた被災者に走ってきた乗用車が突っ込み、被災者に激突し、搬送先の病院で亡くなった。	231	17	30～49
2010	8	2～3	高速自動車道の追越車線を走行中、速度超過に伴う運転操作の誤りによって右ガードレールに接触し、その反動で左路壁に衝突した。さらに路壁に衝突した反動で車が回転し、走行車線を塞ぐように停止し、助手席に乗っていた被災者は車外へ投げ出された。その後、後ろから走行して来た大型トラックが走行車線上に止まっていた車に追突し、車外に投げ出されてい	231	17	1～9

			た被災者をひいた。			
2010	7	10～11	農業集落排水施設の中継ポンプ槽の保守点検のため、道路に設置されているマンホール内部の堆積汚泥等をバキュームした後に、内部にあるフロートをマンホールの外に引き上げるため、被災者は、マンホールに常設されているタラップにて、内部に降りていった。その際に３．５ｍ下のマンホールの底に転落し、救出され病院に収容されたが、汚水を飲み込んだことにより肺に炎症を起し、数日後に死亡した。	418	1	1～9
2010	6	4～5	被災者は、事業場から作業現場に向かうため、１人で清掃車を運転して、国道に合流しようとしていたところ、合流車線に駐車していたトレーラーに追突して被災し、同日死亡したもの。災害の直接原因は被災者の前方不注視であるが、被災者は８６日間連続就労しており、このことによる過労も災害発生の一因になったものと目される。	221	17	50～99
2010	6	7～8	病院内の物療室（電気治療などの物理療法を行う部屋）において、高さ２０５ｃｍの戸棚内にあるガーゼの入った段ボール箱を取るために高さ８０ｃｍ、奥行４０ｃｍの棚の上に乗っていた被災者が付近で清掃作業を行っていた作業員に当該段ボール箱を渡そうとしたところ、転落したもの。	379	1	10～29
2010	5	16～17	事業場指定のガソリンスタンドにて燃料を充填するため駐車し、運転席より離れたところ、車両（トラック）が前に自走し始めた。被災者が自力で静止させようとしたが、ガソリンスタンドの地形が緩やかな傾斜であったため止めきれず、車両はさらにガソリンスタンド脇を通る７．７ｍの公道をも横切って隣地の工場の万年塀に激突し、被災者は車両と万年塀との間に挟まれた。搬送先病院にて５日後に死亡した。	221	6	10～29
2010	3	8～9	同僚２名と雑木林の間伐作業中、同僚が立木を切り倒そうと使用していたチェンソーが、その立木を支えていた被災者の左足に接触し負傷した。病院に搬送されたが死亡した。	136	8	1～9
2010	3	10～	被災者は、災害発生地のマンホール内の地上から約２．５７ｍの地点において、当該事業場の代表者と共に倒れていたところを発見され、レスキュー隊により救出されたが、酸素欠乏症により死亡していたもの。作業	714	12	1～9

		11	開始前に酸素濃度を測定せずにマンホール内に入ったとみられる。			
2009	1	9～10	古紙を圧縮・梱包する梱包プレスを用いて段ボールの梱包作業中に、当該機械を停止せず同機械の詰まりを取り除く作業を行ったため、機械内に何らかの拍子に転落し、同機械の押出しピストンによって段ボールとともに押出された。	169	7	1～9
2009	7	7～8	スーパーマーケットのゴミ搬出口にて、ゴミ収集車のテールゲート内に被災者がはさまれた。当該作業を被災者は一人で行っていた。	221	7	50～99
2009	11	9～10	二人の作業者が、ごみ収集車で家庭用のごみを収集していた。69箇所目のごみ置き場において同僚が置き場からゴミを取り出し、それを被災者が収集車に投げ入れていた。同僚がこぼれたゴミをまとめていたところ、突然、「ガタン」と音がして振り向くと、収集車の回転板が被災者をはさみこんでいた。すぐに緊急停止スイッチを押して、被災者を救出して救急車を呼んだが、同日に死亡した。	229	7	10～29
2009	1	15～16	店舗兼住宅の庇部分の除雪のため、被災者はトラクター・ショベルのバケットに乗せられ、庇の一部の雪庇を落とした後、当該庇部分（高さ4.56m、幅85cm）に乗り移り、足元の雪を踏み固めていたところ、バランスを崩し墜落した。	418	1	10～29
2008	11	16～17	プラスチックごみの圧縮梱包機（稼動中）の周辺で、作業者6名が床に落ちているプラスチックごみをかき集める作業を行っていた。その際、同機械の圧縮板の後方の作動エリアに入った被災者が、圧縮後に戻り作動していた鋼製板とシリンダー受けの支柱とにはさまれて死亡した。	169	7	30～49
2008	6	9～10	県道交差点でバキュームカーと軽乗用車が出会い頭に衝突してバキュームカーを運転していた被災者が死亡した。	221	17	10～29
2008	8	11～	6階建てビルの塔屋上にある貯水槽の清掃後、貯水槽に設置されている鉄製はしご道を降りていたところ、はしご道とともに25m下の道路上に墜落し	371	1	10～

		12	た。			29
2008	4	11～12	フレコン（牛の配合飼料、1袋500kg）を倉庫内に運ぶため、フォークリフトのフォークにフレコンを2袋つるした状態で作業者がフォークリフトを運転し前進走行をしていた。その際、出勤のため工場入口から食堂がある建物内に向かって歩行していた被災者とフレコンが接触し被災者が転倒し死亡した。	222	6	100～299
2008	5	22～23	道路清掃作業（路肩排水枡等の清掃）のため、自社車両センターから「高圧洗浄車とバキューム車、3人の班」で出発して道路上を走行中に車線変更した際、ハンドル操作を誤り、左の歩道側街路樹に接触した反動で右に横転（1回転近く）した。運転者は死亡した。	221	17	30～49
2008	5	10～11	一般廃棄物処理施設において、解体耐火物の入ったフレコンバッグ2袋（合計1.23t）を最大荷重1.2tのフォークリフトでつり上げ、ごみピットに投入しようとしたところ、フォークリフトが前方に傾き、運転者がフォークリフトとともに約8m下のごみピットに墜落してフォークリフトのバッテリーの下敷きになり死亡した。	222	1	50～99
2008	2	11～12	事業場の西側出入口付近の未舗装の市道上で、バックしてきたゴミ収集車にひかれて死亡した。	221	17	10～29
2008	3	18～19	消石灰貯留槽内の消石灰の詰まりを直す際、貯留槽のはしごに乗って作業を行っていたところ、約2mの高さに詰まっていた消石灰に墜落して石灰の中に埋まり死亡した。	418	1	10～29
2008	5	15～16	作業者5名と共に岸壁に停泊中の起重機船の清掃作業を行っていたが、海面にうつ伏せで沈みかけているところを他の作業者が発見した。	239	10	10～29
2007	4	16～	廃棄物処理施設の２階作業場において、被災者と同僚の２名でペットボトルを詰めた袋（８０ｃｍ×８０ｃｍ×８０ｃｍ約２５ｋｇ）をショベルローダーのバケットに積み込む作業を行っていたところ、同僚がバケットに手を添えていた被災者に気付かず、積み込み終了の合図を出したため	418	1	30～

		17	に、ショベルローダーの運転手がバックし、被災者が２階作業場（高さ約４ｍ）より１階のコンクリート床に墜落した。			49
2007	10	5～6	営業所構内において、長距離バスのし尿抜取作業を終了した後、運転手がバスを移動しようとしたところ、前方にいた被災者（清掃担当）に気付かずバスを前進させ、被災者に衝突した。被災者はバスの前方で落した荷物を拾うため、しゃがみ込んだところをバスに衝突され、倒れこんだところを右後輪にひかれた。	231	6	10～29
2007	11	17～18	被災者は浄化センターにおいて単独で保守点検作業を行っていたところ、エアリフトポンプ槽に可動式ポンプの据え付け作業中又は可動式ポンプによる排水作業終了の後、約６ｍ下の同槽底部に墜落した。同槽には縦１２８×横２０７．５ｃｍの開口部を４枚の板にて蓋がしてあったが、そのうち縦１２８×５１．５ｃｍの蓋一枚が上記ポンプ据付用に外されていた。	414	1	10～29
2007	5	10～11	被災者は、トラックから荷を卸すため、運転席から降りていた。作業者がフォークリフトで積荷を降していたところ、突然トラックが動き出し、トラックの前で、ロープを片付けていた被災者がトラックと工場内の鉄柱との間にはさまれた。	221	7	50～99
2007	12	10～11	クリーンセンター内の資源ごみ集積場において、収集した紙ごみ（ダンボール）を２ｔトラック（収集車）から下ろす際、集積場所に近づけるためにトラックを後退させ、ブレーキをかけようとしたところ、トラック運転者が誤ってアクセルを踏み込んだため、トラックの後方にいた被災者がトラックに激突され、トラックと壁の間にはさまれた。	221	6	10～29
2007	6	11～12	携帯電話基地局の施設内での除草作業中、被災者が持ち場を突然離れたため、作業を指揮していた現場責任者が現場内を探したところ、現場敷地の隅のアスファルトの上で被災者が横になっていた。病院に搬送されたが死亡した。	417	2	1～9
2006	5	13～	労働者が、タンク内の水砕（鉄鉱石の不純物）をブローガンで高圧洗浄を行っている際、何かが右側から飛来、被災した。	999	4	10～

		14				29
2006	5	14～15	同僚２名とともに吸上車によるくみ取り作業を行うため、ドライバーである被災者は吸上車を駐車し、ギアをニュートラルにしてサイドブレーキをかけた後、運転席を離れたが、駐車した場所が斜面（約２度）になっていたため、約８メートル逸走してきた吸上車と電柱の間に挟まれた。	221	17	100～299
2006	3	13～14	雑木林内に放置された古くなった傘、雑誌を片付けるようガードマンから言われた被災者ともう一人の作業員は、ガードマンの先導の元、雑木林内を歩いていたが、被災者はガードマン、他の作業員とはぐれ、約２８度の雑木林斜面を駆け下り、高さ２．３メートルの石垣から転落した。	711	1	1～9
2005	8	15～16	清掃車を公園内に駐車するため、公園入口の車止めを外して清掃車を公園内に入れて一旦停車させ、運転席を離れて再び車止めの鍵を掛けようとしたところ、清掃車が動き出し、ひかれた。	221	7	1～9
2005	1	12～13	駅ホーム向かいに設置している看板の清掃作業を行っていたところ、走行して来た貨物列車に被災者が接触した。	232	6	10～29
2005	10	9～10	ごみ収集作業で事業所からのごみを積込み後、収集車の後部につかまり走行中、転落した。	221	1	1～9
2005	8	9～10	槽の洗浄をするため、槽間の作業床上で高圧洗浄器のバルブを開いたときに、ホース内を流れる高圧水の反動で80℃の湯が入った槽に転落した。	416	1	1～9
2005	7	9～10	2人で機械式ごみ収集車によりペットボトルの回収作業を行っていたところ、機械に巻き込まれた。	229	7	50～99
2005	10	10～11	建物の１階の庇の上で外ガラスを清掃中、3m下の地面のコンクリートに墜落した。	418	1	1～9

2005	10	13～14	公園内にある詰所へ自転車で向かう途中、トラックと接触して転倒した。	221	17	10～29
2005	9	9～10	ゴミ収集車のゴミを押し込むカッターローラーを回転させながら水洗いをしていたところ、カッターローラーに挟まれた。	229	7	10～29
2005	3	4～5	国道を走行中、ゆるい下り坂のカーブでスリップして制御不能となり、数十m蛇行した後、道路右側の電柱に車両右側面から衝突した。	231	17	30～49
2004	6	15～16	マンションの5階通路で清掃作業をしていた被災者が約13m下のアスファルトの地面に墜落した。	371	1	10～29
2004	2	0～1	駐車場において、被災者と同僚の2名で、ゴミ収集車のテールゲートを開け、ゴミを取り除く作業を行っていたが、作業終了後、同僚がテールゲートを閉める際、テールゲートと車体の間に挟まれた。	221	7	10～29
2004	4	10～11	ウォッシャーの洗浄工事において、被災者がスプレーガンでドラムの高圧洗浄をするためにスクリューコンベアの上に乗り、同僚がドラムの回転スイッチを入れようとしたところ、誤ってスクリューコンベアのスイッチを入れたため、被災者がスクリューコンベアに巻き込まれた。	169	7	30～49
2004	3	10～11	駅前ロータリーで清掃作業中、後方から来た普通乗用車に衝突された。	231	17	50～99
2004	2	14～15	資源ごみ回収中、次のゴミステーションまで収集車の後部荷室内に被災者を乗せドアを開けたまま時速約15kmで走行していた。30m程走行したところで右カーブに差し掛かり曲がった際にパリンという硝子の割れる音がしたため、運転者が車を停車し荷室を見るとビンの入ったカゴと一緒に転落している被災者を発見した。	221	1	100～299

2004	3	16～17	砕石用ベルトコンベアの駆動部スプロケット（歯車）交換作業において、供給シューター付近に堆積した砕石を除去していたところ、コンベア上の砕石の自重でコンベアが逆転し、ベルトコンベアとシューターの間に挟まれた。	224	7	10～29
2004	6	9～10	海水を取水する貯水槽の清掃作業中、槽内で発生した硫化水素ガスにより被災した。	514	12	1～9
2003	10	9～10	廃棄物焼却施設プラントの清掃作業で、同僚3人と燃焼室上部の煙道内に入り、スコップ等を用いて付着堆積した焼却灰を燃焼室へ掃き落としていたときに、焼却室への開口部から足を踏み外して11.9m下の焼却室底部に墜落した。	418	1	10～29
2003	7	6～7	高速道路のパーキングエリア駐車場において、ほうきとちり取りを持って清掃作業をしていたときに、動き出した大型トラックの右前輪に巻き込まれた。	221	17	50～99
2003	6	10～11	ごみ収集車（2t）によるごみ収集作業で、ごみ収集口のシャッターにつかまり、荷台の縁に足を掛けたまま次の収集場所まで移動中に転落した。	239	1	1～9
2003	5	13～14	約300m離れたところにある工場に停めてある列車内の清掃をするため、構内運搬車に乗って作業用道路を走行し、線路を横断しようとしたときに、工場内から出てきた列車と衝突した。	232	6	30～49
2003	3	18～19	下水道管渠（きょ）調査で、マンホール内の作業員にマンホール外の脇でしゃがんで指示および作業を行っていたときに、前方から乗用車が来たので交通誘導員が一旦停止の合図をしたが乗用車は交通誘導員をはね飛ばし、さらにすぐ後の作業者もはねられた。	231	17	100～299
2003	2	9～10	家庭ゴミの収集作業で、傾斜のある集積場所に収集車を停車させ作業を行っていたところ、車両が動き出したのでこれを止めようとして車両側面部分と公道脇のコンクリート壁との間にはさまれ、勢いでその先の斜面を転げ落ちた。	221	6	100～299

2003	2	10〜11	ゴミ運搬車からゴミをピット内に落とす際に、運転手が後部に他の者がいたことを確認せずにパッカーを動かしたため、頭部をパッカーにはさまれ、さらにピット内に転落した。	221	7	10〜29
2002	12	11〜12	ごみ収集車で走行中、信号機のない市道交差点で乗用車と出会い頭に衝突し、その弾みで道路脇の電柱に衝突した。	231	17	50〜99
2002	7	16〜17	2ｔダンプを使用した伐採木の撤去作業で、伐採木を積み込んだ荷台で伐採木を押さえていてダンプから墜落した。	221	1	1〜9
2002	11	14〜15	農業用水路内の清掃作業に使用した不整地運搬車（最大積載量850ｋｇ）を撤収するため後進しているときに、後方の水路横断管（鋼管製・直径35ｃｍ）に運転席が激突し、運転席前方の荷台と前傾した座席との間に挟まれた。	227	7	10〜29
2002	10	23〜24	高速道路の出口附近の工事区間において、出口分岐点に設置した工事用電光表示板に用いる発電機にガソリンを給油していたところへ走行していた13ｔトラックが突っ込み、作業中の2名が跳ねられた。	221	17	50〜99
2002	10	23〜24	高速道路の出口附近の工事区間において、出口分岐点に設置した工事用電光表示板に用いる発電機にガソリンを給油していたところへ走行していた13ｔトラックが突っ込み、作業中の2名が跳ねられた。	221	17	50〜99
2002	8	5〜6	ＪＲ駅前の清掃作業で使用していた伸縮ブーム型高所作業車（最大地上高9.9m）のバケットにワイヤー掛け、別の小型の垂直昇降型高所作業車（最大地上高4m、200kg）を4tトラックに載せようと吊り上げたときバランスを崩し、乗っていた労働者が投げ出された。	146	1	10〜29
2002	7	11〜12	傾斜地に植えられている木の剪定作業で、三脚（はしご）の足を樹木の根元と側溝にかけて作業していたところ、側溝の方の足が外れたため三脚が倒れて高さ約1.6mの箇所から転落した。	371	1	10〜29
		11	台風で座礁した貨物船の船内と海洋に流れ出た重油の回収作業のため、10			10

2002	8	～12	名の労働者が左舷バラストタンク内に立ち入ったときに硫化水素中毒となり2名が死亡した。	911	12	～29
2002	8	11～12	台風で座礁した貨物船の船内と海洋に流れ出た重油の回収作業のため、10名の労働者が左舷バラストタンク内に立ち入ったときに硫化水素中毒となり2名が死亡した。	911	12	10～29
2002	8	11～12	小学校校舎の外部窓清掃で、2階の窓を窓枠に足を掛け身を乗り出して清掃していて約5m下のコンクリート通路に墜落した。	414	1	10～29
2002	8	8～9	ドック内に入渠している貨物船のチェンロッカーを清掃するため、仮設の乗船タラップを通って船のデッキ上にあるタラップを降りようとしたときに、船首側の手すりの間から16.5m下のドック底に墜落した。	413	1	10～29
2002	7	14～15	焼却灰から金属類の除去作業中、暑さのため体調不良となり日陰で休憩していたときに痙攣を起こし、意識不明の状態に陥って病院へ運ばれたが死亡した。	715	11	10～29
2002	6	14～15	マンション（11階建）の9階の窓清掃作業で、支障となる網戸を取り外すため窓をまたぐ姿勢で網戸を取り外していたときに、約24m下の植え込み部に墜落した。	418	1	1～9
2002	5	10～11	収集してきた家庭可燃ごみをごみ焼却場のごみピットに空ける作業で、ごみ収集車からごみを掻き落とす補助作業を行っていてピットの開口部から8m下のごみピットに墜落した。	414	1	100～299
2002	4	13～14	大型トラックで機械を積んで国道を走行中、道路左側のガードレールに接触して横転し運転席に挟まれた。	221	17	1～9
2002	3	14～15	雨水管の清掃作業が終了し、片付け作業をしていたところ、雨水管よりマンホールの上に昇ってくる作業員の一人が墜落したので、これを助けようとして4名が雨水管内に降りてとも硫化中毒で倒れ、さらに満潮で増水していた汚水まじりの流水中で溺死した。	514	12	0

2002	3	14～15	雨水管の清掃作業が終了し、片付け作業をしていたところ、雨水管よりマンホールの上に昇ってくる作業員の一人が墜落したので、これを助けようとして4名が雨水管内に降りてとも硫化中毒で倒れ、さらに満潮で増水していた汚水まじりの流水中で溺死した。	514	12	0
2002	3	14～15	雨水管の清掃作業が終了し、片付け作業をしていたところ、雨水管よりマンホールの上に昇ってくる作業員の一人が墜落したので、これを助けようとして4名が雨水管内に降りてとも硫化中毒で倒れ、さらに満潮で増水していた汚水まじりの流水中で溺死した。	514	12	0
2002	3	14～15	雨水管の清掃作業が終了し、片付け作業をしていたところ、雨水管よりマンホールの上に昇ってくる作業員の一人が墜落したので、これを助けようとして4名が雨水管内に降りて硫化中毒で倒れ、さらに満潮で増水していた汚水まじりの流水中で溺死した。	514	12	0
2002	3	14～15	雨水管の清掃作業が終了し片付け作業をしていたところ、雨水管沿いにマンホールの上に昇ってくる作業員の一人が墜落したので、これを助けようとして4名が雨水管内に降りて硫化中毒で倒れ、さらに満潮で増水していた汚水まじりの流水中で溺死した。	514	12	0
2001	12	13～14	車で国道を走行中、対向車線に入り、対向の車両と正面衝突した。	231	17	30～49
2001	12	16～17	総合老人福祉施設の5階エレベーターホールの窓ふき作業中に18m下の地面に墜落した。	418	1	10～29
2001	9	21～22	市道にあるマンホール内の仕切弁を清掃するため、交通誘導用の看板等を設置して工事箇所を囲い、作業を開始したときに、走行してきた乗用車がガードマン1名、作業員3名をはね、作業員1名が頭部を強打して間もなく死亡した。	231	17	10～29
		3	高速道路のtネル内部清掃作業を高所作業車で行い、作業終了後、トラックをバックさせながら作業場を区切っていたパイロン(三角錐のバリケード)			30

2001	10	～4	を積みながら高所作業車もバックさせていたとき高所作業車の後で誘導していた者をひいた。	146	7	～49
2001	9	10～11	白あり駆除作業において、台所床下に入って電気ドリルで穴を開けていたところ、床下換気扇の配線と電気ドリルの刃部が接触して配線の被覆を破損し、そこから漏電して電気ドリル本体を伝って右胸に流れ感電死した。	351	13	10～29
2001	1	10～11	バキュームカーで簡易浄化槽の汲取り作業のため徒歩で汲取り宅に向かっていて道路側溝に転落した。	418	1	10～29
2001	7	10～11	ワゴン車で県道を走行中、道路左側に停車中の大型トレーラーに追突して走行車線をふさぐような形で横向きになったところへ後続の大型トラックに追突され同乗者2名が死亡した。	231	17	1～9
2001	7	10～11	ワゴン車で県道を走行中、道路左側に停車中の大型トレーラーに追突して走行車線をふさぐような形で横向きになったところへ後続の大型トラックに追突され同乗者2名が死亡した。	231	17	1～9
2001	6	0～1	刈り払い機により工場敷地内の草刈り作業中、別の作業者の刈り払い機の作業半径内に誤って立ち入って刈り払い機の刃部に右足を触れて負傷した。	169	8	1～9
2001	6	11～12	し尿をバキュームカー(4t)で回収し汚水処理場へ向かう途中、荷台に積んであってパイプレンチが道路上に落下したため車両を止めて回収しようと車から降りて道路上を歩行中、後進してきた他の作業員が運転するバキュームカーにひかれた。	229	17	1～9
2001	5	13～14	本災害は、産業廃棄物焼却施設のガス冷却室内にある温調用空気加熱器374本の煙管内部を携帯用電動工具等を用いて清掃中に感電した。	379	13	1～9
2001	3	8～9	出張で、宿泊先のホテルから車で帰社途中、前の車を追い越すために車線変更したときに中央分離帯に衝突し、横転して車外に放り出された。	221	17	50～99

2001	1	11～12	普通貨物自動車の後部扉(観音開き式)を開きゴミを積んでいるときに、走行してきた2tトラックが扉に接触した反動で飛ばされ、路肩の縁石で右後頭部を強打した。	221	17	1～9
2000	11	21～22	パチンコ店の天井面の清掃で、脚立(高さ3．24m)の五段目(約1．5m)に上がりモップを用いて作業中に脚立から転落した。	371	1	1～9
2000	6	11～12	水力発電所用水路周辺の草刈り作業をエンジン付刈払機で行っていて、用水路内に転落し溺死した。	416	10	1～9
2000	3	23～24	駅構内に停泊する電車2編成の車内清掃を行う予定で、清掃を行う車両の駅到着まで待機するホーム駅長事務室へ行くため線路を横断して近道をしたところ、通過中の回送電車に激突された。	232	6	30～49
1999	12	2～3	事業場から排出された一般廃棄物をごみ回収車で回収するため、国道の歩道付近に停車させ、雪が降っていたので運転席横で雨具を着用していたときに後方から直進してきた普通乗用車にはねられた。	231	17	10～29
1999	11	13～14	工場内のテニスコートで人工芝のメンテナンス作業中、清掃機械がガス欠で止まったので携帯用ガソリン専用タンク(20リットル)持って行き、地上に置いた状態で蓋をゆるめたところ「シュー」と音がして機械とタンクの間で炎が走って服に燃え移り、全身火傷を負った。	512	16	1～9
1999	11	12～13	食料品製造工場内の清掃作業において、無菌米飯製造ラインの自動シール機の最終点検作業を行うため、機械を稼働させたままプラスチックカバーを外して機械内部を覗き込んでいたとき、水平移動してきた圧着装置本体とカバーを固定していた支柱との間に頭部を挟まれた。	165	7	10～29
1999	11	14～15	ビルの窓ガラスの清掃作業で、3階喫煙室の外側の窓を清掃するため左足を脚立にのせ、右足を高さ約1mの窓枠にのせてスクイズで水切り作業をしていたときにバランスを失い、高さ約7m下の屋外階段のコンクリート踊り場に墜落した。	418	1	1～9

1999	10	10～11	オートバイ製造工場の荷さばき場において、大型トレーラーに荷(オートバイの完成品の梱包箱)の積み込みを終了して発進したところ、通行していた構内清掃作業員をひいた。	221	6	10～29
1999	8	11～12	ごみ置場で、ごみ収集車のバックを誘導中に、転んだところを収集車にひかれた。	221	17	50～99
1999	5	13～14	塗料かすピット及びその周辺の清掃作業で、5段・2列に積み上げられた水切り用のパレット(1段の高さ70cm、ピットから移された塗料かす入)の最上段部に雨水避けのためにビニルシートを掛けていたときに、墜落した。	379	1	30～49
1999	7	0～1	銅製錬において電気集じん機内部に付着した煙灰(ダスト)を除去しているときに、集じん機に付着していた高熱の煙灰をかぶって全身に火傷を負った。	519	11	10～29
1999	6	9～10	公園内の公衆便所の壁面等を掃除するため、洗面台に上がり作業をしていたときに、洗面台がぬれていたため足を滑らし、床に転落して頭を強打した。	419	1	10～29
1999	5	23～24	高圧洗浄車により、市道交差点中央付近のマンホール部において下水管の清掃作業中、現場責任者と作業員3名が普通乗用車に激突された。	231	17	10～29
1999	4	10～11	高炉ガス配管のドレンピット内洗浄作業で、ピット内のドレン配管に詰まっていたスラッジを除去するため、高圧洗浄機でドレン管内部を洗浄したときに、高炉ガスが噴出した。	514	12	1～9
1999	2	10～11	高速道路の法面上部にある排水溝清掃作業において、休憩場所から作業場所に向う途中にフェンスを乗り越えて飛び降りたときに足を踏み外し、法面を仰向きの状態で頭から9．6m下の道路脇に転落した。	418	1	10～29
1999	1	8～9	移動式クレーンで約5tの残材を10tダンプから荷降しするために残材を吊上げて旋回したところ、クレーンが転倒しキャビンと地面との間に挟まれた。	212	2	50～99

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_30.htmlに戻る。